



令和6年7月30日

研修だより 24号

全国学力調査の考察（国語編）

小笠原康晃

先日、全国学力・学習状況調査の結果が帰ってきました。調査の中の国語と算数に関する考察を行いました。よかったところを伸ばす授業や改善すべきところを意識する授業を実践することで、子どもたちの学力を高めていくことに繋がります。ぜひ2学期以降に気を付けて授業をしてみてください。

1 国語

(1)「よかったところ」に関する問題

出題の趣旨	領域	観点	問題形式
資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうか	話・聞	思判表	選択式
目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	話・聞	思判表	選択式

友達の発表を聞くことや必要なことを伝えるために工夫することができています。「話す・聞く」に関する単元やそれ以外の単元であっても、「話す・聞く」ことが意識して取り組むことができています。

今後も、目的意識をもった話し方や伝え方に気を付けた発表の指導を継続していきたいですね。

(2)「改善すべきところ」に関する問題

出題の趣旨	領域	観点	問題形式
目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。	話・聞	思判表	選択式
登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。	読むこと	思判表	選択式
日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる。	我が国の言語文化	知・技	選択式

「読むこと」に関することを改善していきたいです。描写を基に心情を捉えることや文章の中から読書の良さに気付くことが苦手でした。どちらも「文章から読み取ること」が必要になってきます。

まとめでは、教科書などの記述を基にしながら自分の言葉で文章を書くことに力

を入れていきたいですね。

(3) 全体的な考察

①頭で分かっているが、文章にすることが難しい

正答率は「選択式」の方が高いです。これは、子どもたちは問題の答えを頭の中でしっかりと整理できていると考えられます。自分の頭の中にある考えと近い回答を選択する事ができていると思います。

一方、記述式の正答率は低いです。先ほどの結果を踏まえると「頭では理解しているが、そのことを文章にまとめることが苦手である」ということができます。

2学期からは目的意識をもった書くこと（ICT活用も含む）が大切になってくる。国語の「書く」単元を中心にしながら、毎回のまとめやふりかえりも含め、「書くこと」に力を入れていきたいですね。

②文章が示す内容を理解することが難しい

説明文であっても、物語文であっても文章が示す内容を理解することが難しかったです。文が示していることはどのようなことなのか。この表現が示していることは何なのか。そのことが分からず、迷ってしまうことが多かったようです。

物語文を読み終わって、「思い出に残った場面」を話し合うときには、一つ一つの言葉や文に着目するような取組をするなど、文に気を付けるような指導をしていきたいですね。